

平成28年度 第1回 理事会・総会を開催



【理事会の様子】

前年度の活動について報告

過去最高件数の相談を受け付ける
プロ農業者からの経営相談が大きく増加

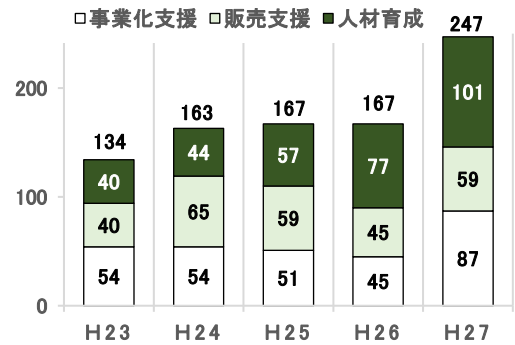
6月8日（水）、東京都千代田区の糖業会館において、平成28年度第1回理事会・総会を開催し、議案の審議とともに、昨年度の活動について報告を行いました。

理事会には、当機構の理事10名とオブザーバー15名にご出席いただき、事業実績や理事の選任、本年度の事業計画などの審議が行われ、全会一致で可決されました。続いて行われた総会には、当機構の会員にご参加いただき、事業実績

の審議（可決済）や今年度の事業計画などの報告が行われました。

J・PAOは、平成19年2月2日、NPO法人として東京都知事の認証を受けて設立されました。本年2月で丸9年が経過しましたが、この間、農業経営者等から寄せられた相談件数は累計1447件に達しました。

平成27年度の相談件数は247件と過去最多の件数でしたが、これは、経営改善に取り組む農業者のフォローアップ事業の受託、6次化商品をバイヤーに評価してもらった新サービスの導入等によるものです。また、27年度の農業者からの相談は96件で、前年度の46件から大きく増加しました。主な相談内容は次の通りです。



【相談内容別 受付件数の推移】

◆事業化支援

個別に寄せられる6次産業化や経営発展への経営分析やプランの策定支援、福島の補助事業に採択された農業者の事業計画達成のフォローアップなどの相談が87件中66件（76%）を占めました。この中には、27年度から、J・PAOコンサルタントがアドバイザーとして取り組んでいる地理的表示保護制度の相談業務も含まれています。

◆販売支援

販路開拓支援が56件（95%）と大宗を占めます。

主な内容は、J・PAOが新たに立ち上げた「6次化商品力チェ

ックサービス」や小規模な個別商談会「農と食の出会い」の企画・運営などで、その多くは、日本政策金融公庫農林水産事業と連携してサポートに当たっています。

◆人材育成・普及啓発

金融機関や行政が行うセミナー・講演への講師派遣が86件（85%）を占めます。

講演のテーマは、農業融資の審査や資金需要の特徴、地域における主要農産物の特性、販路開拓・出口戦略、経営計画に関するものなど多岐にわたり、講師派遣の相談は、3年連続で増加しています。

*

総会後に行われた懇親会では、会員同士で日頃の活動などについて懇談しながら親睦を深めていただきました。

J・PAOは、日本農業の未来を切り拓いていく「プロ農業者」の多様な経営課題を「民の力」「民の知恵」により解決し支援することを目的として創立されました。本年度も引き続き、事業化支援、販路開拓支援、人材育成の3本柱で、プロ農業者のお役に立てるよう、より一層邁進してまいります。

□ 専門部会の動き (5月分)

【販売支援】

今年度の専門部会のテーマについて意見交換をしました。

主な意見は下記の通りです。

- ・農業者と双方向、継続的な意見交換を行う機会を設けてほしい。
- ・6次化商品について、小売や卸売など販売を専門とするバイヤーの目線や訴求ポイント等を知る機会があると良い。
- ・これまで当専門部会で扱った6次化商品について、その後の状況を知りたい。

今回は、食品バイヤーから、農産物の仕入れに対するプロの目線について学ぶ予定です。

【事業承継】

事業承継について意見交換を行いました。

主な意見は下記の通りです。

- ・高齢化し、あとを継ぐ人がいないという現状に至った原因にも目を向けるとよい。
- ・経営継承のマニュアルは、ハード面について書かれていることが多い。

今回は、部会の進め方などについて議論する予定です。

【J-PAOビジネスモデル】

当部会の趣旨、既存のサービスについて意見交換しました。

主な意見は以下の通りです。

- ・J-PAOの既存のサービスには「6次化商品力チェックサービス」「アグリ・マーケットリサーチ」「ビジネスプランニングサポート」等がある。
- ・サービスを展開する際は、6次化の定義を明確にした方がよい。

今回は、新サービスの立ち上げについて議論する予定です。

【人材育成】

企業派遣型課題解決ワークショップのチラシ案について、集客したいターゲットをわかりやすくするとよい、写真や図を入れるとよい等の意見がありました。

その他、とちぎ農業ビジネススクールの企画などについて意見交換しました。

次回も、人材研修の内容について議論する予定です。

□ J-PAO白書を公表

J-PAOは、6/8に開催された通常総会の席上で、「平成27年度J-PAO白書」を公表しました。

今後も、「プロ農業者」の課題解決に向けて、実践・試行の中から知恵を出し合い、総合的な支援を継続してまいります。

平成27年度J-PAO白書(ダイジェスト版含む)をJ-PAOホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

□ 主な活動 (6/1~6/30)

- 6/8 平成28年度第1回理事会・総会
- 6/14~15 研修講師(農林中金アカデミー、三重県)(竹本)
- 6/15 第104回企画運営委員会
- 6/16 研修講師(農林中金アカデミー、佐賀県)(稲永)
- 6/17 研修講師(日本公庫、東京都)(竹本)
- 6/21~22 研修講師(農林中金アカデミー、新潟県)(義家)
- 6/24 研修講師(農林中金アカデミー、愛知県)(稲永)

~事務局からのお知らせ~

J-PAO会員のみなさまに、J-PAO Pressを有効活用していただきたいと思っております。

J-PAO Pressの紙面等を使って、主催イベントを知らせたい、新規事業の取組みを紹介したいなど希望される方がいらっしゃいましたら、J-PAO事務局までご連絡ください。

往復書簡
(後編)

埼玉県で「久野農園」を経営する久野裕一さん。経営者として、これからの組織作りなどについて考えをお話いただきました。

拜啓 高木 勇樹 様

お返事ありがとうございます。ついこの間まで霜の心配をしていたと思つたら、もう熱中症対策を気にする時節になりました。世の中の流れもめまぐるしく変わり、ふと油断すると流れに対応するだけの日々を過ごしてしまひそうです。

高木様からお返事をいただき、仕事上のごことはもとより、自分自身の人生を振り返る良いきっかけになりました。

お返事の中で、農業とは、経営資源を創意・工夫・努力で活用し所得を得る「総合知識集約産業」であるとおっしゃいました。私自身の20代、30代の来し方を振り返ると、無数の失敗を繰り返す中で、創意・工夫・努力の質が少しずつ改善され、プラスのものもマイナスのものも含め、その蓄積が経営資源となつて今に至っていることを改めて認識しました。

わずか1年ほどの研修期間を経て、23歳で全く未知の場所(沖縄渡嘉敷島)で就農。沖縄渡嘉敷島での10年間で埼玉に来てからの9年間は、「型二」を身につけないまま就農した人間が、農業という仕事の「型」を身につけるために必要な試行錯誤の時間だったと思います。ものすごい遠回りを経てようやく見えてきた「総合知識集約産業」である農業の仕事の「型」。基盤としての「型」をもとに、世の中の流れに合わせて、原点(誰のため、何のため)に立ち戻つて判断し、結果責任をとつて決断・実行する。そのように経営する自信のようなものは、幸いなことに自分の中にあるようです。

一方で、不安や焦りも少なからずあります。現在、自分自身ががむしやりに作業するスタイルから、組織で稼ぐスタイルに移行しようとしていますが、稼ぐための作業の型を新人に教えて、身につけてもらい、自分自身は経営者としてやるべきことに覚悟を持って臨む。ただ、頭では分かっているが、覚悟しているつもりでも、いざやってみると、深い部分では全然できていないと思ひ知らされることがあります。以前、似たようなことを志したものの、うまくいかずに周りに迷惑をかけた記憶も蘇ってきます。

そのような不安や焦りを抱えていた時期、私は前回の往復書簡で「この先、農業の世界に入ってくる若い人に自分はどうな将来像を提供できるのか、一緒に作っていきけるのか。大変かもしれないが豊かな将来像は何か」と投げかけました。それに対する「農業の原点は総合知識集約産業。これが将来像であり、その中身をどう作るかはその人自身である」との答えを見てハッと思いました。これまで、経営者として組織を持続させるために必要なものは、「将来像」や「ビジョン」のようなものと考えていましたが、お返事をいただいたから、必要なものは「ビジョン」や「将来像」よりもむしろ「社風」ではないかと思ひ始めるようになりました。

「まずは型を身につけようよ。基礎力を身につければ、お客様や世の中の困りごとに対処していけるよ。真剣に対処していけば、大変だけれどきっと役に立てるし、役割をもらえて仕事が楽しくなっていくよ。本気で仕事をしていくのは、何物にも代えがたい面白さがあるよ。」と言えるような会社の雰囲気。構成員それぞれが、自分の個性を出しながら「将来像の中身」を作っていく組織。そういう「社風」の組織を作り、発展させていくことを、これからの10年間のテーマにしたいと思ひます。

計らずもベストなタイミングで大きな気づきをいただきました。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

平成28年6月吉日

久野 裕一 (くの ゆういち)

1974年 東京都生まれ(両親は山形出身で、母方は稲作専業農家)

1997年 沖縄渡嘉敷島村で新規就農

2007年 農園を埼玉県に移転
人参や葉野菜等の完全無農薬野菜の生産及び販売を行う。野菜本来の栄養価を持ち、新鮮で使いやすく、食味に優れている野菜作りを目指している



拜復 久野 裕一様

関東・甲信地方が梅雨入りしたとみられるとの発表が気象庁からあったのは確か6月5日だったと思いますが、その後は真夏日、猛暑日の連続で、雨らしい雨が降ったのは2、3日でしょうか。

東京の水がめも干上がり、「節水」が呼びかけられる始末。まさか、このまま夏本番に突入ではないでしょうか。

この往復書簡が「気づき」の契機になられたとのこと、大変嬉しく思いました。

ひとは立ち止まるとき、意識する、しないにかかわらず、必ず来し方行く末を考えているものです。

立ち止まるきっかけは、成功の場合もあるし失敗の場合も、また何が分からないが前に進めない進んではいけないというシグナルを感じたときなどいろいろだと思います。

立ち止まる時間の長さは、立ち止まるきっかけとなった事柄・状況の大・小でなく、おそらく感性（自分のものさし）で対応できた時間で決まるのです。

この感性は貴兄のいわゆる「一型」といつてもよいと思います。

その「一型」は貴兄がいみじくも指摘しているように時の経過の中で進化していると私は受け止めました。

このことが私のいう感性（ものさし）が豊かになるということだと思います。

新たな事態が起こったとき、おそらく貴兄はこの「一型」が当てはまるかどうかで進むかどうか判断していると思うのです。もしこの「一型」で判断できなければ、事柄の大小に関わらず立ち止まって、何が故かを考え、当てはめられる「一型」をみつけようとするはずで

今回のお手紙で書かれていることは、正にこの新しい「一型」さを感じたと思いました。

将来像、ビジョンという「一型」では貴兄が直面している事態に対応できない。だとすれば、「基礎力を身につける、真剣に対処すれば、役割をもらえて仕事が楽しくなる、本気で仕事をしていくのは何物にもかえがたい面白さ」と言えるような会社の雰囲気。構成員それぞれが自分の個性を出しながら「将来像の中身」を作っていける組織。これを新しい「一型」にしよう。

おそらく10年も経たないうちに、この新しい「一型」では対応できない事態に直面するでしょうが、貴兄の「気づき」はそれを易々とのりこえ、対応できる新しい「一型」に深化し続けると確信しております。

終わりなき挑戦者が貴兄です。

呉々も健康にご留意の上、頑張ってください。

敬具

平成28年6月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

- 一九四三年 群馬県生まれ
- 一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官などを歴任
- 一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官
- 二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事長
- 二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任
- 二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長
- 現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力

